

個人 5

受 令和 2 年 8 月 25 日  
付 (午前)・午後 9 時 00 分

一般質問 (代表・個人) 通告書

令和 2 年 8 月 25 日

尾張旭市議会議長 殿

氏 名 芦原 美佳子

尾張旭市議会会議規則第 50 条第 1 項の規定により<sup>9</sup> 8 月定例会において別紙のとおり質問したいので通知します。

なお、質問事項の件数及び質問方法は、下記のとおりです。

記

1 質問事項 3 件

2 質問方法

	1 回目 一括質問、一括答弁 再質問以降 質問事項 (大項目) ごとに一問一答
<input type="radio"/>	1 回目から 質問事項 (大項目) ごとに一問一答

↑ 選択する方法に○を付す。



質問事項  No. 1	ごみの減量と資源化について
要           旨	<p>         本市は、平成 26 年に策定された「尾張旭市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」に基づき、ごみの減量と資源化を推進しており、令和元年度に中間見直しが行われました。更なるごみの減量を推進するため、平成 30 年度に「家庭から出る燃えるごみ有料化」の検討が行われましたが、現時点では、まずは「生ごみの減量」「資源ごみの適正分別」などの既存の取組や、新たな取り組みによりごみの減量を図ることとし、燃えるごみ有料化は行わないと判断しました。しかしながら、基本計画目標年度である令和 5 年度の目標値 1 人 1 日 428 g を達成させるためには、一層のごみ減量に取り組む必要があります。また、本年 7 月より、尾張東部衛生組合晴丘センターは、焼却炉などの老朽化に伴う延命工事を本格化に実施し、従来どおりのペースでごみ処理ができないため、ごみ減量の協力を呼び掛けています。この機会に、今一度、ごみ減量対策と資源化をより多くの市民や事業者の協力の下、取り組む必要があると考え、以下質問します。       </p> <p>         (1) 生ごみの更なる減量について          生ごみの更なる減量について、どのように取り組まれるか見解を伺います。       </p> <p>         (2) 雑がみの更なる資源化に向けて          雑がみの出し方や課題、資源化に向けた取組について見解を伺います。       </p> <p>         (3) 燃えるごみ指定袋にごみ処理コストを明示することについて       </p> <p>         (4) 紙おむつのリサイクルについて          ア 使用済み紙おむつ処分の現状と課題について          イ 使用済み紙おむつのリサイクルについて       </p>

※ 申し合わせ事項に留意する。

質問事項 No. 2	骨髄バンクドナーの支援について
要 旨	<p>           コロナ禍においても白血病などで、骨髄バンクドナーからの移植を強く望む患者さんが数多くみえます。日本骨髄バンクのドナー登録者数は本年7月末現在、約52万8千人です。骨髄移植のためには、患者とドナーの白血球の型(HLA型)が適合しなければならず、現在は、骨髄移植を希望する患者さんの9割以上に適合するドナー登録者が見つかっています。しかし、実際に移植に至るのは約6割にとどまっており、その要因として、ドナーの健康上の問題のほか、時間的拘束が多いなど、ドナーに対しての様々な負担が考えられます。このような状況を踏まえ、骨髄移植の推進及び骨髄バンクドナー登録の増加を目的として、骨髄バンクドナー助成制度を導入している市町村が増加しています。一人でも多くの患者さんの命を救うため、本市での骨髄バンクドナーの支援が前進することを願い、以下伺います。         </p> <p>           (1) 骨髄バンクドナー登録の推進について            平成29年6月議会において、骨髄バンク事業の推進について質問いたしました。骨髄バンクでは、ドナーの登録者の確保が大きな課題となっています。前回の答弁ではまずは、啓発活動から実施したいとのことでした。骨髄バンクドナー登録の推進に関して、これまで本市が取り組まれたことについて伺います。         </p> <p>           (2) 骨髄バンクドナー助成制度について            愛知県は、ドナー等への助成制度を導入している都府県において、助成の開始後に骨髄提供者が増加している結果などを検証し、助成制度の導入を始めました。全国では700を超える市町村で、また愛知県内では現在50市町村が提供ドナーに助成を行っています。ドナーの負担軽減のための助成制度は、一人でも多くの患者さんの命を救うための有効な手段だと思います。本市でも実施していただきたいと考えますが、見解を伺います。         </p>

※ 申し合わせ事項に留意する。

質問事項  No. 3	子どもの任意予防接種について
要            旨	<p>           予防接種には、予防接種法に基づいて市区町村が主体となって実施する「定期接種」と、希望者が各自で受ける「任意接種」があります。定期接種はおおむね無料で受けられますが、任意接種は原則自己負担であり、子育て世代にとっては大変な負担となっています。日本小児科学会が推奨している、おたふくかぜワクチンやインフルエンザワクチンについても、その重要性については定期接種のワクチンと全く同じと言われています。         </p> <p>           また、子どもが、がん治療などで骨髄移植などを受け、接種済みの予防接種で得た免疫が消失し再接種が必要となるケースがあります。その場合も任意接種扱いとなり費用は自己負担となりますが、近年、愛知県内においても、これらの任意予防接種費用の助成を行っている市町村が増えつつあります。         </p> <p>           子どもたちの命と健康を守るため、また子育て支援策の一環として任意予防接種費用の助成拡充を求め、以下質問します。         </p> <p>           (1) 子どものインフルエンザ予防接種について            ア コロナ禍におけるインフルエンザの感染予防について            イ 予防接種の必要性について            ウ 予防接種費用の助成について         </p> <p>           (2) おたふくかぜ予防接種について            ア 感染状況について            イ メリットとデメリットについて            ウ 愛知県内でのおたふくかぜ予防接種費用の助成状況について            エ 本市での助成について         </p> <p>           (3) 特別な理由により抗体が失われた子どもへのワクチン再接種について            ア 現状について            イ ワクチン再接種費用の助成について         </p>

※ 申し合わせ事項に留意する。